

## 平成24年度 第1回地域ぐるみの教育推進委員会 会議概要

平成24年7月23日（月）15時～17時

小田原市役所 6階 602会議室

- 1 開会  
進行 佐藤副部長
- 2 委員紹介
- 3 委員長、副委員長選出  
佐藤（富）委員長、遠藤副委員長を選出

### 4 議題

#### (1) 校庭芝生化の取り組みについて

##### 資料1

○プロジェクターを使用して下府中コミュニティーShin2加藤智晃氏より説明

○質疑、意見

(栢沼委員) 日本サッカー協会の補助を使って行っているのか。現在は支援制度があるのか。

(加藤氏) 日本サッカー協会の補助は初年度のみである。湘南ベルマーレや、関東地区のポット苗助成事業の支援団体として登録しており、小田原がポット苗を希望すれば湘南ベルマーレなどが、いつでもいくらかでも直接支援してくださると聞いている。

(栢沼委員) 地域の支援体制が出来ていれば芝生化は可能か？

(加藤氏) 費用の面で言うと、サッカーくじのTOTOは、当初は校庭の芝生化にあまり前向きではなく、人工芝のみの補助だったが、近年、天然芝にも助成してくださることになり、それに加え一昨年度からは維持管理費3年分助成してくださると聞いている。さらに、設備投資の初期投資として5分の4を投資してくれる。残りの額のうち一部を日本サッカー協会から支援を得れば、行政に大きな金銭的な負担を求めなくても実現可能である。3年間の間に、各地域でどういう形で管理・維持していくことが一番いいのかを模索する状態になっている。最も大切なのは、地域がまとまることである。小田原市の学校や園に植えている西洋芝は、高麗芝など一般的な芝生と違い、ちくちくせず、非常に柔らかいのが特徴である。一度、見に来ていただいて、

触れていただきたい。

(佐藤(親)委員) 芝生化には各校で様々な問題があるだろうが、下府中小学校の場合はどういった問題があるのか。

(加藤氏) 取り組みのスタート時に支援して下さったサッカーチームなどはいつでも支援していただいております、イベント時にはボランティアが多く集まるのだが、それ以外では、なかなか集まらないことである。地域の80代の女性が中心となって行っている「おはよう健康体操」は、当初は下府中小学校校庭で健康体操を行いつつ、芝生の管理のボランティアも行っていましたが、今年度は難しくなっている。そこで、子ども会に声をかけた。今年度の夏休みは、月曜日から金曜日、6地区の子ども会が代わる代わるラジオ体操の会場を校庭にし、その際に芝生の管理も行ってきている。初日は土曜日で12人、次の日が39人で、今日は、今日から子ども会が入っており、58人が来た。子どもが来ることをきっかけに、大人も手伝ってくださるようになるとよいと期待している。また、今夏は、のべ3千人の方が来てくださり、その中で、1人や2人でも、熱心に手伝ってくださる方が増えるといいと思っている。

(山岡委員) 今後校庭の芝生化を希望する学校はあるのか。

(長澤委員) 希望調査は行っている。グラウンドの状態や、地域の協力が得られるかという不安を持つところもあるが、予算面がクリアできれば、子どものためにやってもよいという学校もいくつかはある。

(山岡委員) 地域体制作りが一番ということはわかるが、土壌調査については、教育委員会にやってもらえるのか。

(加藤氏) 完全な芝生ではなく、草も生える芝生という鳥取方式で行っている。芝生は、植物が生えにくいといわれているグリーンサンドにも、広がりにくいが生える強い植物である。通常造園屋さんが考えるような土壌のペーパーなどの問題よりも、一番の懸念は子どもの踏圧である。面積辺りに何人の子どもが負荷をかけるかということについては、資料1の表の通りである。下府中小学校については、12.19という踏圧指数になるが、校庭芝生化の成功するか否かの分基点は、10~15である。それよりも大きい数字は、あまり手をかけずに成功しやすい。東京都ではかなりのお金をかけ、業者が管理していると聞くが、小田原は素人が決められたルールを守り、お金もかけずに行う鳥取方式のため、あまり難しくない。

(佐藤(富)委員長) 加藤氏から行政や地域に対して要望等はあるか。

(加藤氏) 芝生化の取り組みを多くのところでやればやるほど、芝生の種が安くなるなどの利点があるので、例えば、様々な課が協力し、全市的に取り組み、河川敷を緑地化するなど、緑を増やしていく取り組みを行ってもらえると良いと思う。

また、今年、酒匂幼稚園の農園は、地域の方から借用しているが、かながわ西湘農協から色々なものをご寄付いただき、育てていると聞いた。企業の社会貢献を活用し、協力を得ながら取り組むことも、双方にメリットがあり、良いと思う。

(松原委員) 校庭芝生化をすると、校庭に石灰でラインが引けない問題や、校庭を使用できない期間があるなど、あったのではないかと思う。体育の授業など、学習活動に支障はあったか。

(遠藤副委員長) 私は本年度に移動してきたので、それ以前のことは分からないが、現在の段階では、体育を行う際にも、芝生専用の小さなコーンを置いて行ったり、運動会の時にはペンキでラインを引いたりしており、支障はなく、むしろ、のびのびとやれている。また、けがも、少ないと思う。

(佐藤委員長) 加藤さん、今日は本当にありがとうございました。

## (2) 学校支援地域本部事業の概要について

### 資料2

○プロジェクターを使用して小田原市スクールボランティア スクールコーディネーター 有賀委員より説明

○質疑、意見

(橋本委員) こういうことを詳しく知らない人にも、非常に分かりやすかったと思うが、こういった情報の提供先はこの会議に出席しているメンバーや、平塚で行われる研修メンバーだけでよいのか。活動をさらに活発にするためには、地元で理解してもらうことが一番大切だと思うので、こういった情報を地元の人に発信する機会を設けるべきではないか。

(佐藤(富)委員長) まさに、地域ぐるみの教育推進委員会の目的自体もそういった目的であると思う。地域ぐるみの取り組みについて、1人でも多くの市民に御理解いただき、ご参画いただきたいと考えている。

熊澤委員からは、活動について、何かございますか。

(熊澤委員) ボランティア活動について、今年度は活発になってきたが、皆さんにご理解を得て、浸透するまでに、最初はすごく時間がかかった。地道に少しずつ情報を発信し、少しずつ定着してきたと思う。

(佐藤(親)委員) 今までは担任が自らボランティアを探すことがあったが、現在はコーディネーターの方が各学校に配置されており、依頼をすると、学校とのパイプ役になりボランティアを探してくださるので、図書ボランティアなどを取り入れやすくなっており、大変助かっている。また、市にはスクールボランティア用に予算を取っていただき、ありがたいと思っている。

(長峯委員) コーディネーターの方が頑張っても、先生方の理解が得られな

いと、依頼が生まれず、進まないの、P T A運営委員会に出席していただきアピールしていただくなど、学校と話し合う場を設けることが大事である。先生方にとって、打ち合わせ時間の確保が大変な点となっている。その解決が、スクールボランティアの利用頻度の増加に繋がると思う。前任校ではスクールボランティアの利用が盛んな学校であり、自分は体育の教員だったが、たくさんの地域の方に指導していただいた。子どもにとって、多くの地域の方に指導していただくことは、プラスであり、子どもの顔が変わると感じたので、私は多く取り入れていた。ただ、足踏みしている先生方がいることも確かである。

(鈴木委員) 幼稚園は、小中学校より遅れてコーディネーターが配置されたが、現在、地域ボランティアの方が多く入っている。以前は職員で行っていたことを、コーディネーターの方にどうやっていただくかが悩みや迷いとなっており、上手く生かせていないと指摘されたので、来年度に向けて見直していこうとしているところである。資料を見せていただきよかったと思う。

(高井委員) P T Aの場合は、なり手について、なかなかおらず、苦勞しているが、スクールボランティアについては、任期はあるのか。単年度だと、年度が終わると一からとなることが多いので、あまりにも長期間なのも問題だとは思うが、複数年度依頼し、ある程度継続して行っていた方が、内容を深めたりするためにも、良いのではないかと思う。

(熊澤委員) コーディネーターの任期は、ある学校と、ない学校とある。スクールボランティアは、募集制や、登録制で、単年度の活動である。スクールボランティアも、募集をしてもなり手が少なく、中学校の場合、仕事に出られる保護者も多いので、同じメンバーになりがちである。市P T A連絡協議会側と、お互いに協力していくことが大切だと思う。

(佐藤(富)委員長) 父親の参加についてはどうか。

(有賀委員) 幼稚園では多い。また、おやじの会がある場合は、参加が多いと思う。夏休みなどに環境整備や力作業といった父親の活躍の場が多くある。

(栢沼委員) ボランティアについて、P T Aのいわゆる保護者と、保護者以外の地域の方の割合はわかるか。ボランティアの固定化や、高齢化が問題となっているので、多くの地域の方が各学校に関わっていることは分かる。現在の段階が一番充実した状況だと思う。高齢化が問題となっているので、次世代につないでいくことも見通して行っていないと、先細りになることが課題となるだろう。方法として、公の場所では、4ページにある、コーディネーターだより等で情報発信が行われている。自治会関係でできることを考えると、単位自治会が256あるが、最低1つは広報掲示板を持っているので、単位自治会ごとに、地域への情報発信という意味で、毎回でなくても、

募集等必要な時期などに、チラシをいただければ、自治会でも関心を持てるし、掲示板での広報活動が出来る。また単位自治会では地域の色々な方を、各団体を含め集めるので、そういう依頼があれば、今後話題にできるのかなと思う。

(有賀委員) 資料2の5ページに、小・中学校、幼稚園の、昨年度のスクールボランティアの保護者と保護者以外、保護者以外というのは地域の方になると思うが、その登録数について記載した。小学校と中学校を比べると、地域の方のボランティア登録数は減っている。自治会側で、地域の方になるべく声をかけていただけると助かる。

(栢沼委員) 比較的、小学校区は、自治会や地域が直接関わる関係が強いが、中学校区は、複数の自治会連合学区で1つの中学校を組織することもある。中学校の地域の参加数が小学校と比べ数字が落ちる理由として、範囲が広がる関係も影響しているのかもしれない。国府津地区のように小学校1校が、1つの中学校へ進学している地区の場合は、一体化する。いくつかの小学校が1つの中学校へ進学している地区の場合は、小学校へボランティアに行く方が行きやすいのだと思う。できるだけ数字が落ちないように、また、継続していくためには、地域に広くPRし、理解していただき、協力を求めていくことが大切だと思う。

(遠藤副委員長) 参加していただくボランティアは、学校側から依頼するコーディネーターの方の人脈によることが多い。PTA役員をやっていた方にコーディネーターを依頼したときは、声をかけやすい保護者の比率が多くなった。前任校で、主任児童委員の方にコーディネーターを依頼した時には、その方が人脈を活かし、ボランティアに多くのお年寄りのを引き連れてきてもらった。いずれにせよ、ボランティアの高齢化が進んでいるので、いかに次の世代の方に声をかけ仲間に入れていくかがコーディネーターの課題かと思う。

(佐藤(富)委員長) 在任のコーディネーターには、保護者、元保護者が多いのか。

(有賀委員) PTA関係が多い。

(佐藤(富)委員長) それはそれで、一つのネットワークをもっていらっしゃり、そういう意味では非常に役に立つとは思いますが、地域に幅広くネットワークを持っていたいただいている方になっていただくのもいいのではないかというご提案でした。

(山岡委員) ボランティアの年間行事スケジュールはあるのか。

(有賀委員) 学校側からの要請により動き、年度途中で依頼があることもあるため、スケジュールはない。

(山岡委員) 市役所環境部で事務局を行っている、エコカー推進や太陽光、省エネなどを課題とするスマートシティプロジェクトでは、小・中学生に理解してもらえるようなことを、自らが出かけていき、しよう、ということが、今年の事業目標となっている。具体的なことが決まった場合、スクールボランティアの方と調整させてもらうのか、教育委員会に依頼すれば良いのか。あるいは、事務局の環境部と、ある程度話を詰めていった段階で、まず役所内部で依頼してもらうのが良いか。

(佐藤(富)委員長) そのように依頼したい。

(乃美委員) 幼稚園で読み聞かせのボランティアを何年か行っている。今の子どもたちは、核家族の影響か、家庭に祖父母がいない場合が多いので、地域のおばあちゃん役となり、読み聞かせという場で関わることで、思いがけない交流となったことがある。例えば、昔話には、それに関わる事や歌があるが、お話と一緒に歌ったところ、先生方も知らなかった、ということもあった。世代間交流のボランティアの成果を感じた。

(小澤委員) 主任児童委員の中には、ボランティアを頑張っているという話も耳にするが、見守り活動を行う方が多いと思う。主任児童委員としては、協力できていないのかなと思う。

### (3) その他

#### ○次回の日程について

- ・(事務局から) 次回は1月から2月頃に実施する予定の旨説明

(橋本委員) 私の意見が違っていたら言っていたら良かったのだが、6月15日付けでいただいた資料の趣旨と、最近の委員会の方向とは、方向性が異なるように思う。

これだけのメンバーがおり、小田原の子どもたちを皆で育てましょう、という下でやっていると思う。この場で話す事は分からないが、大津市の自殺事件問題があり、小田原でも、いじめなどは以前から起きており、何十年もの間、学校中でも色々な問題があると思う。市町村によっては、学校や教育委員会、団体がアンケートを行うなどしているようだ。この委員会では、そういったことを話し合うことも大切だと思う。そういう話が今回出るかと思っていた。

それから、最近非常に気になることとして、小田原市の交通安全の問題がある。登校時には地域の方がボランティアでしっかり見守り活動を行っているが、下校後、小・中学生自らが加害者、あるいは被害者になる事例が非常

に多い。学校等で取り組みは行っていると思うが、実際には形だけで終わっている。小八幡では、交差点が非常に危ない。中学生が携帯を持ちながら自転車を運転して、ぶつかりそうになったりする例を何度も見ている。子どもたちの命がなくなってしまうえば、子どもたちを健全に育てることも出来なくなってしまうので、その辺りを話す機会があっても良いと思う。

(佐藤(富)委員長) 次回の会議の際には、今回触れたようなテーマも含め、地域の課題などについても話し合っていければと思う。

(橋本委員) 小田原では、子どもに関するいじめのアンケートを行っているか。

(長澤委員) アンケートは、いじめ単独では行ってはいないが、子どもの学校の様子など、色々と把握している。今回の事件があり、先週、教育長名で、各学校長宛に、いじめ防止について、夏休み前に指導協力依頼に関する文章を通知済みである。また、次の日に、県から、文部科学大臣の談話の通知があったので、各学校に協力依頼をした。各学校では子どもたちの状況を把握するために、面談や子どもと先生との交換日記、心理検査などを行い、不安の把握をし、すぐに対応していただいている。また、教育委員会へ直接相談があった場合は、学校へその話をし、学校はすぐに対応をしている。昨年度寄せられた相談事例については、ほとんど改善されている。

(佐藤(富)委員長) 多くの市民の関心事となっており、決して人事ではすまされないと思っている。

(山岡委員) 加藤さんの話を聞かせてもらい、取り組みについては分かった。この委員会の中で予算の問題について共通認識が持てれば、市長に、地域ぐるみの教育推進委員会として、小田原市の全校が芝生化できるよう要望書を出す、などの役割があるのかなと思った。

(佐藤(富)委員長) 芝生化については、加藤市長も非常に感心を持っており、教育委員会の方でも活動の広がりを進めるよう市長から指示が出ているので、来年度以降、また違った取り組みが行われるのかなと思う。ただ、加藤さんからお話があったように、行政や学校だけで出来る話ではなく、地域の方に様々な形でご協力いただき出来るので、特定の方の負担だけで進むのではなく、幅広い方々にそれぞれ担っていただく仕組みづくりから進めていきたい。

## 5 閉会